



2010年秋号
季刊 No.91

特定非営利活動法人「救急会」コスモスの家
〒214 0034 川崎市多摩区三田二丁目五番三
TEL 044-931-2425 FAX 931-2441

● 孤立しないで、安心して生活するための調査が開始しました！

― 川崎市立三田小学校区五、三〇〇世帯が対象に ―

三田地域が開発されてから40年以上の歳月を経た三田地域では、年々居住者の高齢化が進んでいます。

最近では、全国的に話題となった高齢者の孤立化や孤独死の問題が身近におきてきています。

西三田団地においても、昨年数件の孤独死がありました。



三田地域調査研究会

このことがきっかけになり、三田地域に関わる様々な方と三田地域調査研究会を作り、「孤立しないで安心して生活するため」の実現に向けて調査活動に取り組んでいます。

この活動は川崎市

民活動センターの助成事業として、コスモスの家と明治大学園田研究室が実施主体となり、調査に取り組みこととなっています。

「三田地域において、孤立してしまう要因は何か、どのようなことが必要とされるのか」等の地域の課題を明らかにし、地域に埋もれているマンパワーや資源を発見・発掘することを目的としています。

また、現高齢者の問題は、中高年の明日の問題でもあります。コスモスの家の設立は、団地に住む一人のお年寄りが「一番怖いのは孤独です。近くで気軽に話ができたり、お茶を飲んだりする場所があったら…」と言ったことがきっかけとなって出来ました。コスモスの家としては、調査活動を通して今後の事業展開を展望し、具体的な形で地域の課題解決に取り組むことが出来ればと考えています。(コスモスの家・本田)

今後のコスモスの家の事業展開

理事長 渡辺ひろみ

コスモスの家の主たる財源は、介護保険事業であり、コスモスの家の運営安定を図るために、介護保険事業を持続、発展させることが重要です。公民協働の「めだかの地域大学」「三田ふれあいセンター・コスモスの家」等の介護保険制度外事業の充実、発展をボランティアの皆さんと共に目指します。そのためにも、「1000万人の輪(共同代表樋口恵子氏)」などの市民活動に積極的に参加し、行政や自治体に働きかけていく活動を進めていかなければなりません。

今後、高齢者の孤立化や孤独死、また子育て中の保護者の悩みやそれに伴う孤立化、虐待、ネグレクト(育児放棄)、ドメスティック・バイオレンス等を防ぐにはどうしたらいいか、精神的、身体的障害を持っている住民、介護に関わっている住民など、全ての住民に関わる問題にコスモスの家はどうか活動していくべきか、現在、コスモスの家の事業は、介護保険3事業を含めて八つの事業に広がっております。この事業を発展させ、安心・安全の地域社会を目指し、24時間365日、途切れることのないサービスが提供できる(民間)三田地域包括支援センターの活動を目指します。

後援

多摩区・多摩区社会福祉協議会

調査主体 三田地域調査委員会

実施主体 NPO法人コスモスの家

明治大学理工学部建築学科

園田研究室

第21回 うまへんポジウム

「べてるの家」を訪ねて・・・

★「お金の原理」から「人間の原理」へ

今回訪ねたのは、北海道浦河町（人口二万四千人）にある「べてるの家」です。

「べてるの家」の基礎は30年前に精神障害を体験した人たちが、回復者クラブ「どんぐりの会」を作り、教会の一室を借りて活動をはじめました。

「べてるの家」は、平成14年に立ち上がった社会福祉法人で、小規模授産施設2ヶ所、グループホーム3ヶ所、共同住居3ヶ所、有限会社「福祉ショップべてる」からなる共同体です。

現在では、精神障害のある16歳〜70歳までの百五十名の当事者がまちづくりの中核となって活動しています。

★二度の飯よりミーティング

自分を語り、仲間の話を聞き、語り合い、支えあうミーティングは、問題を出し合う場ではなく互いに励ましあう場です。



その日の活動の良かったところ、苦労している点、さらに良くする点を出し合うことが大切だという各リーダーの言葉です。

参加者一同が強く感じたことは、ひとりひとりが持ち味を生かして事業が展開している点にありました。

★創設者 向谷地生良氏（ソーシャルワーカー）は語る



ぶれていた。

現在のようないきいきのあるきれいな町になったのは、公共事業の恩恵です。

でも、公共事業であればどんなことでもいいという訳でなく、また、ただ儲かることだけを考えると公共事業を選ぶのでは、活気のある町にはなりません。

そこに生活する人たちがお互いに声をかけられる、何らかのつながりがあり、安心できる町にするためにはお互いに切磋琢磨して競争して事業をすれば、自然

精神科医は、精神病患者を投薬で治そうとし、また薬を減らすよう説得する。

でも、最も重要なのは、説得するだけでなく、それが出来る生活環境を作ることなのです。

30年前は、この町もうら



とお金についてはくるものです。ここまでになるのには一口では言えない苦労や努力がありました。でも、たゆむことなく行った土壌作りの活動の歴史がそれを物語っています。

「お金の原理」ではいすれ行き詰まります。

この「お金の原理」のために国が病んでいます。これからは、「お金の原理」から「人間の原理」へです。社会的制約も人間が作ったもの、変えていかなければならないですね。「べてるの家」

の人達はかつて精神障害者として世間から排除され、色々な苦労を抱えて生きてきた。でも、それ乗り越えてきました。この経験は近い将来、同じ地域に住む人々の高齢による認知症や障害を持たれた方々に情報提供や互いに助け合うことができるようになります。ただ、どうか、ご理解をお願いします。ではなく、病気の幻覚さん、幻聴さんも仲間にし、かにして、地域の住民として堂々と生きていくのです。

向谷地氏の言葉は、コスモスの家がこれから抱えていくであろう様々なことに対して大きな示唆が込められていると思います。

（渡辺記）



めだかの 地域大学

今回は、コスモスの家が
公民協働の活動として企画・
運営をしている「めだかの地
域大学」をご紹介します。
「めだかの地域大学」の発
足は平成14年。きっかけは多
摩区が行った高齢者調査に関

わった看護師さんが「介護保険の利用者ではない
方の為に地域大学講座を開きたい」というものか
らでした。月1回原則水曜日午後1時半〜3時、
参加費は三百円から五百円、会場はテーマによっ
て変わります。健康づくりに関する講座や音楽会、
毎回三十分程度のストレッチ体操も行っています
。「平成22年度磨けば光る多摩事業」として、年
間約50万円の助成金が給付されています。
現在は、参加者のニーズが高い「健康づくり」
の講座が主ですが、若いも若きも学べる講座を目
指しています。



今回ご紹介する講
座は3年前から始め
ている「夏休み親子
クッキング」。
8月末コスモスの
家の目の前にある生
田中学校特別創作活
動センター内調理室



を使って地域の子もた
ちと一緒に料理を楽しも
うという企画です。
夏休みとあってたくさ
んの子もたちが参加し
てくれました。指導して
くださるのは、「多摩ヘル
スマイトの会」の方々。

調理の前に簡単な栄養バランスのお話をしてく
ださいました。

この日のメニューはオムライス、サラダ、フルー
ツポンチと結構ハイレベルなテクニックを要する
ものでしたが、子どもたちは一生懸命、またワイ
ワイ、ガヤガヤ、キャーキャー言いながら包丁や
野菜と格闘(笑)していました。オムライスの上
にのせる卵焼きを調理するのは大人でも難しいで
すが、みんなきれいに焼き上げました。初めて包
丁を持った子もいれば、「お家のお手伝いしてい
るから」と見事な包丁捌きを見せてくれる子もい
ました。大勢の子もたち
を優しくサポートして、
ケガのないように注意しな
がら飽きさせず、時間内に
終わらせるヘルスマイ
トの方々の指導力に、感謝
感謝です。

できあがった作品はなか



なかのもので、みんなおいしそう
に食べていました。試食の後はみ
んなで後片付け!「えー?後片付
けまでやるのおく?」と言っ声も
聞こえましたが、「お母さんたちは、
君たちが食べたあと毎日やってま

すけど?」と言っ少しは大変さをわかってくれ
たのか、せつせと食器を洗い、棚にしまってくれ
て、子どもたちと楽しい夏の時間が過ぎました。

「めだかの地域大学」の今後の予定は**11月13日**
(土)は蕎麦打ちの会、**12月23日(木)**には生田
中学校吹奏楽部によるクリスマスコンサート、新
年明けては三田出身のヴァイオリニスト永井さ
んによる新春コンサート、2月〜3月には近隣大
学から先生をお呼びして勉強会を開きます。

「めだかの地域大学」の名前は童謡「めだかの
学校」にちなんでつけました。この中の歌詞にあ
る「だあれが生徒か先生か〜」とあるように地
域の方々が、時には講師、
時には生徒というように
身近で気軽に知り合いも
誘って参加でき、また新
しい知り合いもできるこ
うな場をこれからも提供
していきたいと考えてい
ます。(藤井記)





★宮前コスモスだより

毎月第一木曜日絵の勉強会を開いています。講師はミニTEEサービスのころからお世話になっっている栗山典子先生です。

丁寧な先生のアドバイスをいただきながら出来上がった作品は、今度は部屋のどこにかけようかという楽しみを誘います。

時には、ハガキに季節の絵を描いて出来上がった作品を友人、知人の方に送ってとても喜ばれています。また、奇数月の第四木曜日には、地域のひとりの暮らしの方々の声をかけて食事を開いており、地域のボランティアさんの協力で、食事のほかに健康体操、ハーモニカ演奏、懐かしい歌など、ご指導いただき、みなさん楽しみにしていらっしやいます。(宮前コスモスの家 板垣)



利用者の作品



★小学生との交流!

有馬コスモスの家は、有馬小学校の敷地内にあるため、小学生(特に一、二年生)との交流が年に数回あります。

利用者さんにとってもお孫さん、ひ孫さんと触れ合っているような微笑ましいひと時です。

★じゃがいも掘り



有馬コスモスの家の畑でじゃがいもが豊作となり、一年生と一緒に芋掘りを行いました。

「もっと奥まで掘ってごらん、まだまだ出てくるよ」と利用者さんに言われ、軍手をはめた小さい白い手がごろんごろんになりながら一生懸命に土を掻き分けます。

おもいもみつけて時の嬉しそうな顔、顔、顔：後で子どもたち70数名におすそ分けしました。収穫したおもいもは、ポテトサラダや味噌汁の具としてコスモスランチに登場、味も好評です。

★七夕交流会

毎年恒例、七夕の笹飾りを利用者さんに教わりに一、二年生がクラスごとにやってきます。

折り紙でちょうちん、輪つなぎ、あみ飾りなど一緒に作り、フロアーが活気に満ち溢れます。

その後は体育館でのパーティーに招待され、手作りの梅ジュースをご馳走になりました。小学校内にある有馬コスモスの家ならではの交流です。

(有馬コスモスの家 施設長 井口)

